

## 第二言語の意見文産出におけるタスク前プランニングの効果に関する実証的研究

西島, 絵里子

<https://hdl.handle.net/2324/4795550>

---

出版情報：九州大学, 2022, 博士（学術）, 論文博士  
バージョン：  
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（3）

氏 名 : 西島絵里子

論文名 : 第二言語の意見文産出におけるタスク前プランニングの効果  
に関する実証的研究

区 分 : 乙

## 論文内容の要旨

本論文は L2 日本語の文章産出におけるタスク前プランニングの効果について明らかにしたものである。中国語と韓国語を母語とする中級以上の日本語学習者を対象に調査を行い、以下の 3 点について検討した。第一に、タスク前プランニングによって学習者が産出した文章の流暢さ、複雑さ、正確さが向上するかを検討した。第二に、タスク前プランニングによって文章の質的側面である「わかりやすさ」と「説得力」が向上するかを検討した。最後に、タスク前プランニングが意見文の段落構成に影響を与えるかを検討した。上記の 3 点を検討するにあたり、先行研究における課題を踏まえ、タスク前プランニング方法の違いとタスク前プランニングによるタスク全体時間の増加を考慮に入れた研究デザインを設定した。タスク前プランニング方法の違いについては、マインドマップ作成とアウトライン作成の 2 つのプランニング方法を取り上げ、両者の効果の現れ方が異なるのかを分析した。特にマインドマップとアウトラインのアイディア生成数の違いに注目し、アイディア生成数とタスク前プランニングの効果に相関があるのかについても検証を試みた。タスク前プランニングによるタスク全体時間増加の問題については、タスク前プランニングなしで作文時間だけ増加させた条件（オンラインプランニング群）を設定し、タスク前プランニング群とオンラインプランニング群のタスク全体時間を統一した。タスク前プランニング群とオンラインプランニング群を統制群と比較することで、どちらのプランニングがより有効であるかを明らかにできると考えた。調査の結果、以下のことが明らかになった。

1. マインドマップ作成によるタスク前プランニングは文章の流暢さを高めるが、文章の複雑さ、正確さは向上させない。また、文章の説得力を向上させるが、わかりやすさは向上させない。
2. アウトライン作成によるタスク前プランニングは文章の流暢さ・複雑さ・正確さのいずれも向上させない。また、文章のわかりやすさと説得力のいずれも向上させない。
3. オンラインプランニング（時間増加群）は文章の流暢さ・複雑さ・正確さのいずれも向上させない。また、文章のわかりやすさと説得力のいずれも向上させない。
4. マインドマップ作成とアウトライン作成によるタスク前プランニングは書き手が頭括型の段落を構成することを促進するが、オンラインプランニング（時間増加群）は促進しない。

本研究の意義は以下の 3 つである。第一に、タスク前プランニングの効果について、量的な指標と質的な評価、段落構成という 3 つの観点から分析し、タスク前プランニングの効果を多角的に明らかにしたことである。これまで L2 文章産出におけるタスク前プランニングの効果については一致した見解が見られておらず、タスク前プランニングの有効性に懐疑的な研究も見られる。本研究の結果はタスク前プランニングの有効性を支持するものであり、L2 作文教育への応用を考えた時、その意義は大きい。特に、意見文の段落構成についてはこれまで具体的な分析の対象とされず、タスク前プランニングの効果も明らかではなかった。本研究によって、意見文の段落構成の面からも

タスク前プランニングが有効であることが裏付けられ、今後の L2 作文教育への応用が期待できると考えられる。

第二に、マインドマップとアウトラインという異なるプランニング方法を用いてタスク前プランニングの効果を分析したことである。異なるタスク前プランニング方法の効果を比較した研究は L2 文章産出においてはあまりなされておらず、タスク前プランニング方法の特性による効果の違いは検討されてこなかった。本研究では図的表象であり空間性の高いマインドマップがタスク前プランニングとして有効であることを明らかにした。L2 作文では、アウトラインよりもマインドマップを用いてタスク前プランニングを行ったほうがより効果が大きいという知見は、同様に L2 作文教育の発展に資するものであろう。

第三に、タスク前プランニングによる時間増加を考慮し、タスク全体時間を統一し、タスク前プランニングを行った場合と、オンラインプランニングを行った場合（時間増加群）とを比較し、タスク前プランニングの効果を検証したことである。先行研究ではタスク前プランニングによるタスク全体時間の増加が考慮されておらず、タスク前プランニングによる効果であるのか、単にタスク全体の時間が増加したことによる効果なのか、明らかではなかった(Hayes & Nash 1996:53)。本研究の結果により、タスク前プランニングはオンラインプランニングよりも文章産出に効果的であるということが明らかになった。

日本語教育ではタスク前プランニングに焦点を当てた研究は少ない。本研究によって文章産出におけるタスク前プランニングの有用性が見直され、学習者と教師双方に有益な還元がなされることを期待している。